

岡山県が誇る「用即美」のガラス工芸 倉敷ガラス作品をロビーに展示

期間：平成26年2月1日(土)～2月28日(金)

ホテルグランヴィア岡山 1Fロビー

ホテルグランヴィア岡山（岡山市北区駅元町、代表取締役社長 渡部 次拓）は、岡山県倉敷市の工芸品である「倉敷ガラス」29作品を、2月28日(金)までロビーに展示しています。

当ホテルは、県外からのお客様に岡山県のさまざまな魅力を発信する独自の企画を展開しており、今回は日本郷土玩具館（倉敷市中央）館長・大賀紀美子氏並びに作家の小谷真三氏、小谷栄次氏にご協力いただいたものです。

倉敷ガラスは、小谷真三氏が試行錯誤を繰り返して生み出した口吹きガラス製品の総称で、現在、ご子息の栄次氏と二人で制作されています。

小谷真三氏は、分業・工業化されたガラス制作の工程をすべて一人でやろうと思ひ立ち、工房を開設されました。いわゆるスタジオ・ガラスの先駆者です。昭和29年にガラス工場でクリスマスツリー用ガラス玉作りの職人となられたのが、真三氏のガラスとの関わりの始まりです。その後、昭和39年に民芸関係者から手作りガラスコップの制作依頼を受けたのが一大転機となり、日常使い続けて愛される、厚みと重みと潤いのある口吹きガラスが生まれました。

年月を経て作品の種類も愛好者も増え、今では用の追求から自然に生まれる美「用即美」の代表的なガラス工芸品として高い評価を得ています。

京都やウィーンの世界工芸会議では、真三氏は「職人たることの尊厳」について表明し、世界の工芸家から喝采を受けました。また大学では、若い学生たちに職人魂とその喜びについて教え続けてこられました。

今や「倉敷ガラス」の愛好家は、国内はもとより、海外にも広がっています。

展示作品は次のとおりです。

作 品	作 者	作 品	作 者
水差し（青色）	小谷 真三	水差し（青色）	小谷 栄次
扁丸大瓶（青色）	〃	水差し波紋（瑠璃色）	〃
鉄輪大瓶（青色）	〃	徳利・ぐい呑ペア（緑色、白色、青色）	〃
鳥栓酒瓶（赤口巻）	小谷 栄次	コップ（白色大、白色中、白色小）	〃
角瓶手付（白色）	〃	蓋もの（緑色）	〃
扁酒瓶（青色）	〃	ワイングラス大（泡）	〃
塔酒瓶（白色）	〃	ワイングラス（白色、黄緑色）	〃
酒瓶口巻（黄緑色）	〃	中鉢波紋（白色）	〃
花瓶紐巻（青色）	〃	小鉢（うす青色、白色、泡、青色）	〃

【本件に関する報道関係の皆様方のお問合せ先】

ホテルグランヴィア岡山

〒700-8515 岡山市北区駅元町1-5

TEL(086)234-7000 FAX(086)234-7098

営業部 三宅 E-mail:miyake@granvia-oka.co.jp

坂本 E-mail:k-skmt@granvia-oka.co.jp